

町史

ふじのみきの話

194

神奈川大学非文字資料研究センター協力研究者

ルシーニュ・フレデリック



「只見町インターネット・エコミュージアム」(Internet Eco-Museum、略してI T E M)のウェブサイトを構築計画は、只見町の民具を中心にしてその地域の物質文化と非物質文化を総合的にインターネット上で公開するため、2003年度から神奈川大学COEプログラム第4班・地域統合情報発信班が担当することになりました。このチームは、委託業者であるコンテンツ株式会社にウェブ上の技術的仕事を委託した上で、インターネット・エコミュージアムに揭示するべき資料の選択・デジタル化・整理を行い、提示方法を考察してきました。只見町の立場、民俗文化の領域においてインターネット・コンテンツの先端技術を開発したコンテンツ株式会社の立場、神奈川大学COEプログラムの第4班の教授や研究協力者の立場という三つの相補的な視点の協力の下、インターネット・

「只見町インターネット・エコミュージアム」(Internet Eco-Museum、略してI T E M)のウェブサイトを構築計画は、只見町の民具を中心にしてその地域の物質文化と非物質文化を総合的にインターネット上で公開するため、2003年度から神奈川大学COEプログラム第4班・地域統合情報発信班が担当することになりました。このチームは、委託業者であるコンテンツ株式会社にウェブ上の技術的仕事を委託した上で、インターネット・エコミュージアムに揭示するべき資料の選択・デジタル化・整理を行い、提示方法を考察してきました。只見町の立場、民俗文化の領域においてインターネット・コンテンツの先端技術を開発したコンテンツ株式会社の立場、神奈川大学COEプログラムの第4班の教授や研究協力者の立場という三つの相補的な視点の協力の下、インターネット・

には「古く」て形式的には「新しい」博物館のさまざまな可能性を探るプロジェクトでした。このなかでとくに私が取り組んだ【自然と暮らし】コーナーの構想は、2007年の春ころ、只見町教育委員会にある民具カードのスキヤン作業をしていた時に生まれました。民具カードや映像・写真といったさまざまな資料を、どうしたら一つの「展示空間」において統合的かつ効果的に公開できるかという課題はプロジェクトが始まって以来ずっと考えていたのですが、満足できる方法を見つけられずいました。そんな折、教育委員会にあった「作業工程表」のフォルダーと出会ったのです。「作業工程表」とは、稲作や焼畑・狩猟・漁撈など17種類の生業の作業手順を一年間のサイクルを通して解説したものです。これは横山哲夫さんが執筆された工程表を土台にして、明和の民俗を語る会や只見町民具と語る会の方々が加筆して完成した労作で、只見町の住民たち自身が記した貴重な記録資料といえます。8000点におよぶ一般民

具カードと2333点の国指定重要有形民俗文化財の民具カードと並んで、たいせつな「一次資料」であり、補足的な資料でもあります。わたしは、この有効性に気づいて、一つの糸口を掴んだという思いでした。 「作業工程表」が【自然と暮らし】コーナーにふさわしいと思った理由は、いくつかあります。まず、補足的資料としての重要性と、只見町の住民たちによって記録された「一次資料」としての貴重性が挙げられます。しかし、それよりも、ウェブサイトを構築に困っていたわたしたちには、「作業工程表」の採用によってすべての資料を時間軸に整理できるという大きな有効性もとても大切でした。とくに多数の民具カードの閲覧の面倒さを回避できる一つの方法として看做したのです。 このようにいろいろと模索したあげく、只見町の住民たちの手で作成された「作業工程表」は、【自然と暮らし】コーナーの「大黒柱」となりました。さらに時間軸を明確にするために四季ごとに分けた四つの基本画

面を設け、あらゆる種類の資料データを閲覧できるように仕組みをつくりました。「作業工程表」の文章には必要に応じて多少手を加えましたが、できるだけ原文を残すように努力しました。コーナーの構築は「作業工程表」の再構成に手間取ってしまい大幅に遅れましたが、ようやく2010年3月末その完成を見ることができました。横山哲夫さんには、細かい情報を教えていただき、たいへんなお世話をかけましたが、その他にも一度もお会いしたことはない多くの執筆者の方々に言葉で表せないほどのお恩をいただいた気がいたします。



▲作業工程表ファイルと民具カード

▲横山哲夫さん(左)と筆者(右)

